

麦の郷 法人理念

- ①麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- ②私たちはものづくりを通じて障がいのある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- ③私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とのつながりを深め、ともに社会変革を目指します。
- ④麦の郷は、すべての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

支援方針

目指す子ども像

- ◆健康で人間的な生活リズムをもつ子ども
- ◆基本的生活習慣を自分のものとして生活力をしっかりもつ子ども
 - ◆意欲的にあそぶ子ども
 - ◆仲間と一緒にあそぶ子ども

保育の中で大切にしていること

- 当たり前の生活・普通の保育
- 子どもたちが生活の主人公・主体的な活動
- じっくり・ゆっくり・たっぷり・ていねいな保育
- 集団保育であること
- 上等な文化をくぐる・ほんもの体験

送迎バスの実施あり

主な行事

おともだち式 春の遠足 海遊び 運動会 秋の遠足 おもちつき クリスマス会
生活発表会 おわかれ遠足 卒園式 など

本人支援 5領域のねらいと内容

健康・生活

ねらい

- ・健康状態の維持・改善
- ・生活リズムや生活習慣の形成
- ・基本的生活スキルの獲得

●登園時に検温を実施。保育者からの連絡ノートによる体調確認や保育者の観察によって健康状態の常なるチェックと把握を行ないます。

●午前中にたっぷり体を動かし、給食をしっかり食べ、午睡の時間に身体を休めることで、睡眠のリズムを整えていきます。

●1日の生活を通して身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄などの生活に必要な基本的スキルが身につくよう、生活環境を整え、子どもたちの発達に応じた支援を行なっています

認知・行動

ねらい

- ・認知の発達と行動の習得
- ・空間・時間、数等の概念形成の習得
- ・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の取得

●具体的な事物と活動、言葉とが結びついていくよう働きかけていく中で、環境から必要な情報を収集し、行動へとつなげていく認知過程の発達を支援します。

●生活やあそびなどの活動を通して、物の機能や属性、形、色、音の変化、空間・時間の概念の形成、数量、形の大きさ、重さ、色の違いなどを自ずと習得していくよう、一人ひとりの発達に応じた支援を行ないます。また、それを認知や行動の手がかりとして活用できるよう支援します。

言語・コミュニケーション

ねらい

- ・言語の形成と活用
- ・言語の受容及び表出
- ・コミュニケーションの基礎的能力の向上
- ・コミュニケーション手段の選択と活用

●子ども達の行動の裏にあるひとりひとりの思いを受け止め、ことばやコミュニケーションの土台となる共感関係を豊かにしていきます。

●具体的な事物や体験と言葉の意味が結びついていくよう関わりながら、言語の習得や自発的な発声へとつながるよう働きかけていきます。

●指差し、身振り、文字等による多用なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援します。

●相手に自分の思いを伝える、相手の意図を理解するなど、人とのやりとりを通して言語を受容し表出することを支援していきます。

人間関係・社会性

ねらい

- ・他者との関わり（人間関係）の形成
- ・自己の理解と行動の調整
- ・仲間づくりと集団への参加

●子ども達のねがいを受け止め、人に対する信頼感を育んでいきます。

●生活や遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援します。

●感覚あそびや運動遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びへと、子ども達の発達に応じた豊かな遊びを行なっています。また、一人遊びから並行あそび、大人が介入して行う連合的な遊び、役割やルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援します。

●集団保育を基本とし、他児と一緒に生活や活動をくぐる中で、他児との関係を広げていきます。

家族支援

- ・親子保育…保育者の関わりを見てもらう機会や、一緒に子どもの発達や特性に応じた関わり方を考えたり、保護者の困り感への相談援助を行う機会として、月に2・3回程度行なっています
- ・保護者学習会…子育てをしていく上で必要な知識を学んだり、情報交換や保護者の思いを共有する場として、交流会を実施しています。
- ・毎日の連絡ノートでのやりとりや家庭訪問・個人懇談・グループ懇談・発達相談などを実施し、保護者の方と一緒に本児のことを共通理解していきます。
- ・親の会の役員会や各委員会、親の会主催の活動などを共にに行いながら、親同士の交流やつながりを支えています。

地域支援・地域連携

地域の中でその子らしい育ちや暮らしができるように、共に考え、医療機関や各関係機関と連携を図っていきます。

移行支援

年に1回、進路アンケートを実施。地域の保育園や幼稚園への移行希望がある場合には、情報提供を行ったり、見学に同行するなどの移行支援を行います。また、年長児は就学に向けて地域の小学校見学を行います。

職員の質の向上

園内研修として虐待防止や人権について、救命救急、見失い搜索訓練などの内容を月1回程度実施している。また、園外研修として全国障害者問題研究会や、和歌山県障害児保育運動連絡会等の研修会に参加。その他、『みんなのねがい』の年間購読、職員会議や各委員会・各部会会議、日々の振り返りなどを行ないながら、職員の質の向上に努めています。

こじか園の一日

9:10 登園 健康・生活

「おはよう！」おうちからリュックサックを背負い、手提げかばんを持ち保護者の方と、またはバスに乗って元気に登園します。玄関で靴を脱ぎ、自分の靴箱に片付け荷物を持って、お部屋へ向います。

登園活動 健康・生活 認知・行動

自分のグループのお部屋に行き、自分のロッカーの引き出しに着替えを入れます。水筒を水筒掛けにかけ、帽子・ハブラシ・コップをリュックから出して、所定の場所に置き、リュックや手提げかばんを片付けます。

自由遊び 運動・感覚 認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性

「さあ、今日も遊ぶぞー！！」登園活動を終えると、全員が園庭に向います。砂場でそのままごと、サーキット、固定遊具（すべり台・シーソー）等々泥水遊びや水遊び、プール遊びもします。雨の日は室内で遊びます。

10:00 お片付け 認知・行動 人間関係・社会性

たっぷり遊ぶことでお片付けもすっきり受け入れられ、区切りがつけやすく次の活動への見通しが持ちやすくなります。

朝のあつまり 認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性

グループ別に分かれたり、プレイルームに全員集まってあつまりをします。日本の文化に触れながら、四季の歌や手遊びを楽しむことを大切にしています。種類も少しずつ増やし、みんなの前に出てする場面は子どもたちが主役になれる場面です。他にも絵本や紙芝居を見たりします。

グループ活動 運動・感覚 認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性

さんぽ、リズム、描画、製作、クッキングなどをします。

さんぽ 運動・感覚 人間関係・社会性

- ・出かけることを楽しみます。
- ・社会性・ルールがわかっていきます。
- ・四季の移り変わりを肌で感じ、自然に親しみながら五感を育てます。
- ・体力をつけ、目的地までしっかり歩きます。
- ・あぜ道を歩いたりすることでバランス感覚がよくなります。
- ・子どもたちに合わせたさんぽコース、寄り道しながら“いいものさがし”を楽しんだり年長になると遠くに出かけたりします。

リズム 運動・感覚 人間関係・社会性

- ・音楽を感じて自由に体を動かして表現を楽しみます。
- ・広い場所でのびのびと身体を動かします。
- ・見本通り動くことが目的ではありません。

（場所はコミュニティセンターやプレイルームで行っています）

11:30 給食 健康・生活 人間関係・社会性

それぞれのグループの部屋で食事をします。当番の子どもたちがエプロンと三角巾をつけ、給食室にワゴンを取りに行きます。年齢によってお当番の仕事の内容が違います。自分でランチョンマットを敷き、自分の配膳は自分でします。それぞれにそろったら「いただきます」をして食べはじめます。食べ終わると食器の片付けも自分でします。

自由あそび 運動・感覚 認知・行動 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性

給食を食べ終えた子どもは、中庭や室内でのあそびを自分で選びます。

排泄 午睡準備 健康・生活 人間関係・社会性

トイレに行ってからバジャマに着替えます。好きな場所に布団を敷きます。年長児は自分の部屋で午睡します。（6月中旬頃よりプールが始まるまでの期間は、シャワーもしています）

13:00 午睡（5歳児活動は運動会後からあります。） 健康・生活

眠らない子どもも身体を休めます。

（静かに布団の上で過ごします）

14:00 着替え おやつ 自由あそび 健康・生活 人間関係・社会性

起きた子どもからトイレに行き、服に着替えます。自分の部屋でおやつを食べます。中庭と室内など好きな場所でほっこり自由にあそんで過ごします。

14:40 帰りのあつまり 健康・生活 言語・コミュニケーション 人間関係・社会性

プレイルームに集まり、絵本を題材に大型紙芝居やペープサート・OHPなどを子どもたちも参加できる場面を作って楽しみます。みんなで「さようなら」をして、グループの部屋に行きます。帰りのあつまりは子どもたちの楽しみの時間のひとつです。

15:20 降園

トイレにいったから自分のお部屋に行き水筒、帽子を袋に入れ、リュックサックを背負って絵本コーナーへ。好きな絵本を選び、毎日借りて帰ります。その後、玄関で待つお母さんと一緒に帰ります。バス通園の子どもたちもバスに乗り込み帰ります。「バイバイまた あした！！」

こじか園の一日全てにおいて
言語・コミュニケーション
人間関係・社会性 の領域との関連性を大事に保育を行なっています。

一日が終わって保護者のもとへ。
なかなか玄関にこない子どももいますが、やっぱりお母さんが大好き。バスに乗って帰る子どもも嬉しそうに帰っていきます。



偏食の子は・・・

単なる好き嫌いではなく、過敏さからくるものであるので、食べれるものをお腹いっぱい楽しんで食べることから始めます。のりやふりかけ、特別メニューを用意し、レンジで温めるなどその子どもに合わせた対応をします。

着替えは じっくり見守りながら・・・

腕や足を通す『協力』から始まり、少しずつ自分という意欲を育てていきます。『着替え』の練習としてわざわざするのではなく、生活の中で必然的に着替える機会を作ります。日中の気温に合わせて着替えの調節をしたり、好きな服、かわいいと思う服（おしゃれ心を育てる）を着たり、リズムの時はリズム用の服を着たりします。

お友だちと一緒にだからこそ、楽しみながら身につけていきます。

おひるねは、生活のリズムとして必要な時間。『幼児期』という年齢の子どもには必要な時間。眠れない子どもも1時間静かに身体を休めています。



トイレ

時間排泄で誘っていますが、子どもの意思を尊重するようにしています。まず、おしっこが出て気持ち良かった感覚を感じることから、だんだんとその子どものペースに合わせて誘っています。また、トイレでのマナーも身につけていきます。

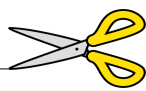
水分補給

牛乳や自分の水筒のお茶を飲みます。



描画・製作 運動・感覚 人間関係・社会性

- ・簡単なものから少し課題のあるものに挑戦していきます。
- ・作ったもので遊ぶ時もあります。
- ・道具を使ったり、描くことを楽しんだり、イメージをもってつくったりします。
- ・素材を用いて変化を楽しみます。
- ・のり、はさみは、持ち方や使い方を楽しみながら使います。



給食

なんでも残さず食べることが目標ではなく、まずは美味しいものをお腹いっぱい食べ、食事を楽しい時間にしていきます。自分でごはんやおかずを取りに行きます。まず、せとものの食器を使うことで物を大切に扱うことを知ります。それから食べ物もこぼさないようにそうっと運びます。そして自分で食べる意欲を大切に、徐々に道具に誘っていきます。食べた後はおしぼりで口を拭き、歯みがきで口をきれいにし、服が汚れたら着替えます。食材には気を付け、食の文化を大切に献立です。



5歳児活動 運動・感覚 人間関係・社会性

言語・コミュニケーション

就学を控えた5歳児は運動会後（10月半ば）から午睡がなくなり様々な活動に取り組みます。

バスや電車に乗ってお出かけ、クッキング、製作など5歳児としてのプライドを育て自信が持てるような活動を行います。5歳児活動を通して身体も心もたくましく育てほしいと考えています。

おやつ

一年を通して季節に合わせた手作りおやつを中心に作っています。

園舎の使い方

同じ部屋でも様々な活動を行うので、部屋の中をシンプルにし、必要な時に机をだしたり、椅子を使い活動をわかりやすくしています。部屋では集まりや製作など、落ち着いた活動、プレイルームはリズムなど身体を動かす活動と場を分けています。場所を移動することで気持ちの切り替えができます。